



文部科学省

地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2026 群馬

尾瀬高校学校運営協議会委員たちが 生徒のエージェンシーを引き出す！

～「カッコいい」大人との対話が
多角的視点を養い、未来を拓く～

群馬県立尾瀬高等学校 校長 荒井 宏之

群馬県立尾瀬高等学校 地域学校協働活動推進員 北沢 桐利子



群馬県沼田市・片品村

学校

群馬県立尾瀬高等学校

学校運営協議会

指定・設置年 令和6年

委員構成

- 地域関係者
- 地域振興公社職員
- 一般社団法人職員
- NPO法人職員
- 地域自治体職員
- 地域学校協働活動推進員

地域学校協働本部

なし

地域学校協働活動推進員等

1名

(学校運営協議会委員を兼ねる)

会議回数 年 4 回

背景・取組概要

- 県北部中山間地に位置する小規模高校。全国募集をする自然環境科と地元生徒が集まる普通科の学年各1クラス編成。
- 地域関係者が尾瀬高校の教育活動に対して協力的であり、学校運営協議会は非常にスムーズで建設的に行われている。
- 学校運営協議会委員が各々のネットワークを駆使して、生徒たちと地域をつなぐことで探究活動等の充実が図れている。

特徴・ポイント

きらめく学校が地域の魅力を向上させる

- 大人たちがエージェンシーを発揮することで生徒のエージェンシーを引き出す。
- 生徒たちがエージェンシーを発揮し、地域づくりに貢献する。
- 学校教育活動が地域にとどまらず、全国そして世界へ広がる。

● 学校の思いとつながる委員たち

- 学校運営協議会委員の経験と思いが学校を動かす。
- 生徒たちの教育活動に「カッコいい」大人たちが伴走する。
- 人とのつながりが新たなつながりを生み、わくわく感が倍増する。

● こだわり委員たちのわくわく熟議

- 職員集団が地域での多くの出会いを大切にし、学校運営協議会委員を選出。
- 委員たちは生徒や教職員、同窓会、PTA等との熟議に臨み、学校の課題と強みを知る。
- 熟議参加者全員が現状を自分事として、わくわくする未来に向けて構想を練る。

成果・効果

- 学校運営協議会委員の経験と思いが生徒に影響を与え「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間力」を伸ばした。
- 生徒たちが柔軟な発想力を生かし、地域活性化に関わる自治体主導の会議に委員として参加している。
- 地域学校協働推進員の活動により、想定以上の人たちの学校教育活動への参画が広がり、地域教育力が高まった。
- つながりが新たなつながりを呼び、新規の高大連携(淑徳大、横浜市立大)や企業・地域との連携が、始動した。
- 大人たちの様々な生き方が生徒たちの進路意識をくすぐり、国公立や難関私立大学へ進学する生徒が続出している。

1. 尾瀬高等学校の概要

群馬県の最北に位置し、全国初の「自然環境科」を有する高校。

尾瀬の豊かな自然をフィールドとし、先進的な環境教育を行っている。

普通科	人文科学コース	経営情報コース
自然環境科	環境科学コース	自然環境コース



<群馬県高等学校等のスクール・ミッション(R8)>

<共通ミッション>

・ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成

<普通科>

・様々な教科・科目の幅広い学習を通して、広い視野と柔軟な思考力を身に付けるとともに、自分の進むべき方向性を見つけることができる高校

・充実した探究的な学習を通して、他者と協働する力や課題解決力を身に付けることができる高校

<小規模校>

・地域における体験的な活動や、小規模校ならではのきめ細やかな指導により、地域に根ざしながら幅広い分野で活躍できる力を身に付けることができる高校

<特色ある学科・コース>

発展的・実践的な学習により、各分野で活躍できる資質・能力を身に付けることができる高校

1. 尾瀬高等学校の概要

<グラデュエーション・ポリシー>

普通科

- **地域**から学び、考え、持続的な発展のために挑戦していく姿勢
- **地域**の課題に主体的に関わり、課題解決に向けて知識や情報をもとに考え、取り組む力
- **地域**との関わりを大切にし、**地域**の現状や魅力などを情報発信する力
- 人間生活の側面から**自然**との共生をとらえようとする力

自然環境科

- **自然**から学び、**自然**との共生について考え、**地域**の持続的な発展のために挑戦していく姿勢
- 豊かな**自然**の中で人と**自然**、人と人との関わりを大切にする姿勢
- **自然**環境に関する知識や様々なデータをもとに物事を考え、正確に情報発信する力
- 人間生活の側面から**自然**との共生をとらえようとする力

<カリキュラム・ポリシー>

普通科

- 利根・沼田地域の特性を知り、**地域**社会とのつながりを実感できる授業展開や探究活動
- **地域**連携を充実し、学びの内容を積極的に外部へ発信できる機会の提供
- 生徒が主体的に学習する授業、学力の定着のための少人数授業の展開
- 商業科目を通じ、広く経済社会で役立つリテラシーを高める学びの展開

自然環境科

- 身近なフィールドでの豊富な体験学習および他者との情報共有や討論を重視した振り返り学習
- 外部人材を活用した、**地域**社会とのつながりを実感できる授業展開や探究活動
- 生徒が主体的に学習する授業、学力の定着のための少人数授業の展開
- 情報発信力を高める教育、学びの内容を外部発信する機会の提供

<アドミッション・ポリシー>

普通科・自然環境科共通

- 体験学習を通して**地域**や**自然**の中で、ステップアップしてみたい生徒
- **地域**や**自然**の学びを通して何かにチャレンジしてみたい生徒
- **地域**や**自然**に興味関心があり、ボランティア精神にあふれる生徒
- **地域**や**自然**のインフルエンサーになりたい生徒



1. 尾瀬高等学校の概要

校訓

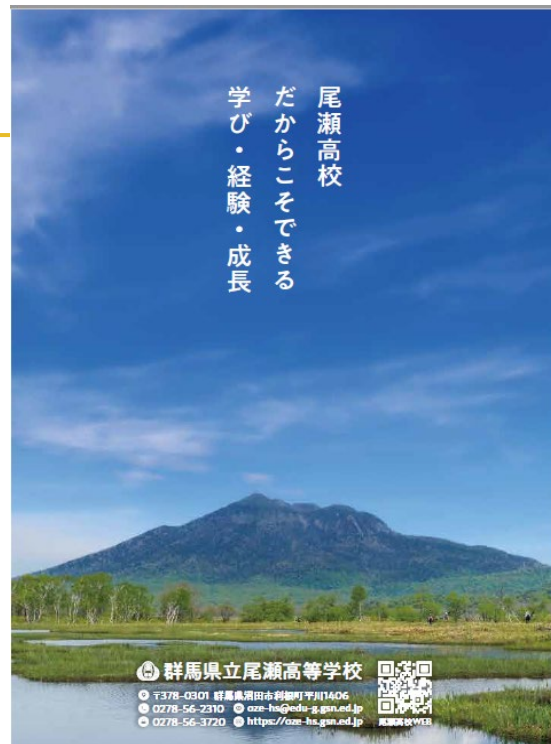
謙虚 克己 愛郷 滔滔

教育 目標

- ・自他を敬愛し、謙虚な気風を養う
- ・たくましい気魄と強い意志を養う
- ・郷土を愛する精神を養う
- ・滔滔と流れるがごとく、豊かな知性と創造性を養う

教育 方針

- ・生徒一人一人の個性や能力・適性等に応じた「きめ細やかな」教育
- ・生徒の「安心」「安全」「安定」に配慮した教育
- ・地域・保護者・生徒から信頼される学校運営



1. 尾瀬高等学校の概要

教育目標 スクール・ミッション スクール・ポリシー
の達成・具現化に向けて

現状における人的・物的資源はどうか

自然環境科の「探究活動」の充実
平成8年（1996年）
科設置と共に「探究活動」スタート



探究31年目
自然環境科

喫緊の課題
探究活動の強化
普通科



普通科の「探究活動」の強化
令和7年（2025年）
K!ZUKU !部を設置

尾瀬高等学校
学校運営協議会
2024年（令和6年）12月設置

「探究活動」
2025年（令和7年）
K!ZUKU !部を設置
普通科の探究学習の強化



喫緊の課題
探究活動の強化
普通科

教育目標
スクール・ミッション
スクール・ポリシー
を達成・具現化するためには

どのような委員（大人）に関わってもらえばいいか

学校運営協議会委員の12名（R8）

会長	地域関係者	豆腐店経営 店長 t
	地域振興公社職員	道の駅 駅長 k
	地域関係者	高校探究アドバイザー
	地域関係者	旅館 女将 k
	一般社団法人職員	地域社会活動 事務局長 t
	地域関係者	農業経営 代表 t
	NPO法人職員	野外保育 代表 t
	地域自治体職員	コミュニティセンター 所長 t
	地域関係者	地域フォレスター k
	地域関係者	農業経営 代表 t
	NPO法人職員	地域社会活動 代表 k
	地域学校協働活動推進員	k：片品村4名 t：利根町6名

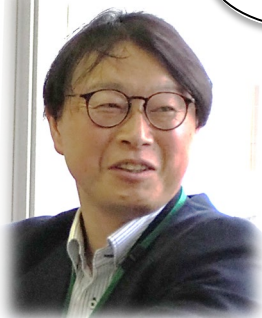
どのような大人に関わってもらえばいいか

学校運営協議会委員の方々

会長
地域関係者
豆腐店店長



地域関係者
高校探究アドバイザー



一般社団法人職員
地域社会活動 事務局長



地域振興公社職員
道の駅駅長

地域関係者
旅館 女将

地域関係者
農業経営 代表

地域自治体職員
コミュニティセンター 所長

地域関係者
農業経営 代表

地域学校協働活動推進員



NPO法人職員
野外保育 代表

地域関係者
地域フォレスター

NPO法人職員
地域社会活動 代表

3. 尾瀬高等学校 学校運営協議会の概要

令和8年度 第1回職員研修4/20
尾瀬高校で育成する14の資質・能力について
『育成できているか、高められているか』
評価が低かったもの…「**多角的視野**」

×

県立高等学校等のスクール・ミッション（R8）
普通科より引用
「**広い視野と柔軟な思考力を身に付ける**」

尾瀬高校コミュニティ・スクール

＜全体テーマ＞「**出会う。気づく。動く。尾瀬から世界へ**」

＜学校と地域の「共通目標・ビジョン」＞
「**多くの出会いから多角的視点を養い、よりよい影響を与える人を育てる**」

＜学校運営協議会の活動テーマ＞「**学びの質向上と地域活性化**」

＜具体的な活動と取組＞

『教え、教わり、共に学ぶ』
学校教育支援活動

『地域貢献にチャレンジする』
地域学校協働活動



4. 尾瀬高等学校 対話を重視した学校運営協議会

様々な形態や手法で対話

学校が「壁」を取り払い 地域とつながる

委員と職員でディスカッション

ブレイン
ストーミング

委員と委員で地域課題解決ワークショップ

ワールド
カフェ方式

委員と生徒で真剣に向き合う

プレゼン

委員と生徒と職員で熟議

KJ法

熟議を通して
学校の課題と
強みを共有

参加者全員が
現状を自分事
として捉える

ワクワクする
未来に向けて
構想を練る

意見交換等

令和6年度第2回学校運営協議会
令和7年（2025年）3月12日

1. 委員と職員との意見交換

- ・地域が学校教育を支援するだけでなく
学校も地域づくりに協力してほしい！
相互の協力体制を築いていきたい！
- ・**探究活動など幅広い活動**を行えるよう**協力**したい！
- ・学校存続のために、良さと課題を明確に分析していく必要！。
- ・・・＜成果＞委員と職員、お互いの考え、価値観の共有！



2. 委員、生徒、職員とのワークショップ

- ・「尾瀬高校で身に付けた力」、「身に付けてほしい力」などについて
意見を出し合った！
- ・・・＜成果＞委員と生徒・職員、お互いの考えを理解！

熟議からの提案

令和7年度第1回学校運営協議会
令和7年（2025年）5月23日

1. 生徒発案：探究活動の計画

生徒が考案した探究活動の「新渡戸文化高校スタディツアー」のプランを委員へ提示！

・生徒からのプレゼンに対し委員より提案

・・・外部の意見をもっと取り入れたら！

自分たちの強みをもっと生かした実現性の高いプランへ！

「自分たちで課題を考える」姿勢を大切に、楽しく主体的に取り組むことが必要！

片品地区だけでなく、利根地区も旅（スタディツアー）のプランにいれてほしい！

2. 委員からの要望：組織・運営に関する意見

K!ZUKU!部の継続性：管理職交代後も活動が続くよう仕組みとして定着を図ってほしい！



5. 尾瀬高等学校 学校運営協議会 熟議の成果 <事例②>

新渡戸文化高校スタディツアーの実施 令和7年（2026年）6月下旬

生徒発案：「地域の魅力発信・農業体験ツアー」

委員のアクション（面白がり力）：全面協力



農業体験



食文化体験



地域の魅力

尾瀬高校と
新渡戸文化高校
の生徒が参加

<成果>

尾瀬高生にとって、都会の高校生の視点、価値観に触れることで
自分たちにとって当たり前だった**尾瀬の自然や地域の魅力（農業）の再発見**

総合的な探究の時間

KIZUKU!
プロジェクト



KIZUKU!プラス

KIZUKU!
プラス

エージェンシーを発揮し、
探究をさらに加速させよう！



探究活動のさらなる充実！



学校運営協議会の熟議をきっかけに
新たな学びの場・環境づくり

生徒が**エージェンシー**を発揮できる場・環境

- ①安心して失敗できる場
- ②小さな成功体験の積み上げる場

大人も**エージェンシー**を発揮できる場・環境

- ①大人たちが生徒に寄り添い伴走する場
- ②地域の大人たちが自ら楽しむプレイヤーになれる場

大人たちが
自ら考え動き出す
「カッコいい」姿

生徒にとって
「カッコいい」大人の
ロールモデル



地域学校協働活動 推進員

尾瀬高校
自然環境科卒業生

北沢 推進員

地域と学校を繋ぐ
「2つの役割」

役割
その1

『尾瀬ハートフルホーム・システム 生活アドバイザー』

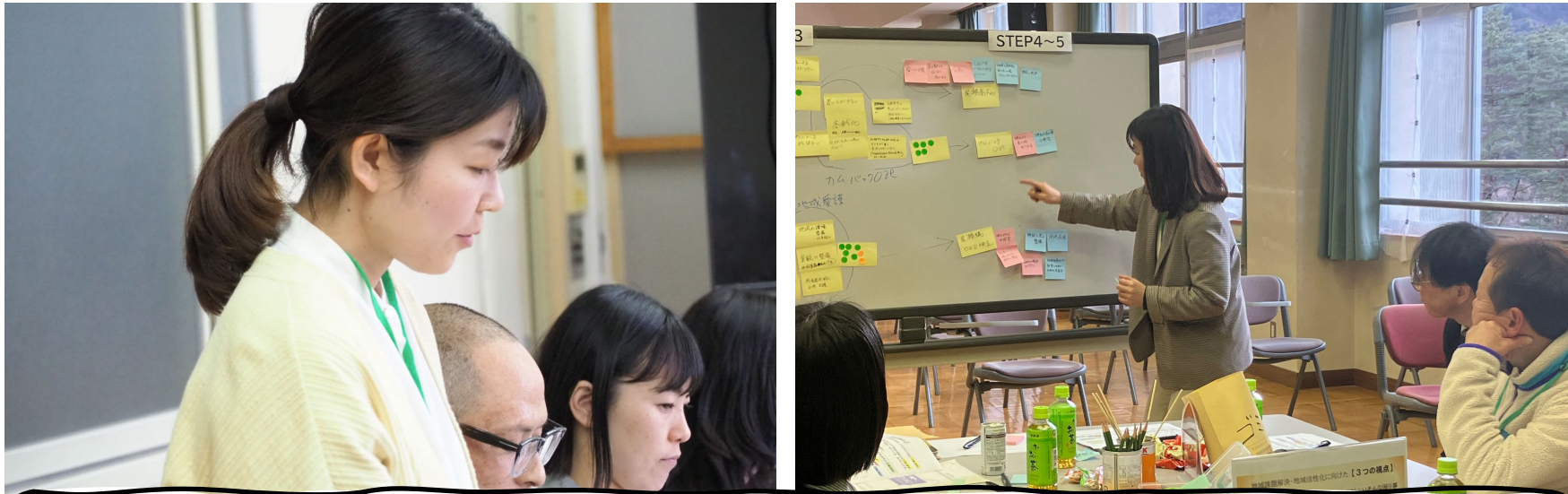


- ◎ 自然環境を学びたい生徒を全国から受入れ、地域の家庭や元民宿(ホスト)が協力
- ◎ 生徒との面談や相談対応
- ◎ ホスト訪問を行い、ホスト先での様子を確認

学校とホスト、生徒とホストをつなぐ

役割
その2

『地域学校協働活動推進員』



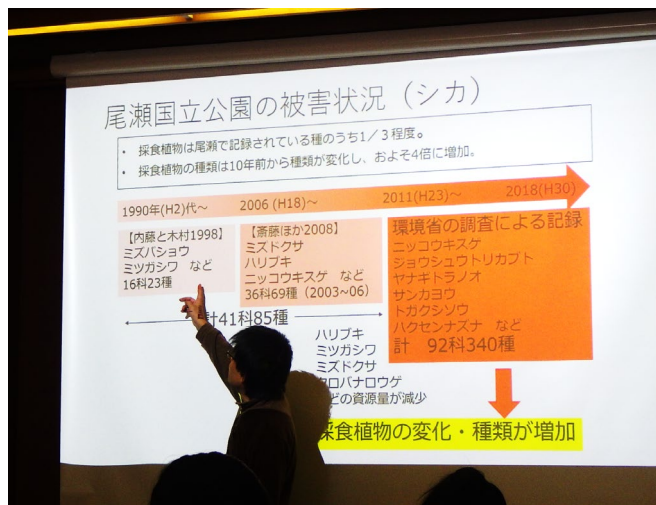
- ◎ 委員以外の地域の方とも つながりをつくるため
イベント等に参加する
- ◎ 地域のこと・人を知る、好きになる

ゆるやかな関係性を地域の方と築く

委員の「想い」と学校教育の現場をつなぐ

委員からの**提案**▶

地域の鳥獣害や外来種問題を背景とした
具体的な**課題意識**の提示



まずは、講義形式で、
地域課題について生徒と向き合う

実際にフィールドへ出て、
生物の多様性と鳥獣害対策につ
いて、生徒の学びに寄り添い伴走



地域フォレスター

尾瀬高校
自然環境科卒業生



委員の「想い」と学校教育の現場をつなぐ

講義実施後の**生徒アンケート**より抜粋

- ・**地域の課題を知る**きっかけになった
- ・駆除するだけでない**工夫を知った**
- ・**自分でも取り組んでみたい**と思った

委員の振り返り（感想）

- ・本校はアウトプットする機会が多い
- ・環境の整備を生徒と一緒にやってみたい
- ・もともとあった景観を取り戻す活動もやってみたい

大人たちが自ら考え動き出す「カッコいい」姿

生徒にとって
「カッコいい」大人の**ロールモデル**

熟議からの成果

令和6年度から現在まで
学校運営協議会

令和8年度から始まった「地域共創PJ」

- ・「尾瀬高校」主導となり、「地域住民・関係者」、「都市部の若者たち」をつなぎ、プロジェクトを始動！
- “地域住民”と“将来の地域住民(定住・Uターン・Iターン)”に向けた内外発信イベント
- 令和8年10月4日(日)10:00～15:00 会場:道の駅尾瀬かたしな

地元高校生×都市部大学生×地域の連携による地域活性化

尾瀬かたしな☆いきいきプロジェクト

～若者の力で、片品村を元気に、賑やかに！～

実施体制

尾瀬高校 KIZUKU!部

片品村役場 (事業主体)

JTB群馬支店 (事務局・PJT運営)

連携

地域住民・関係者

地域の若者たち

未来構想委員会

連携

都市部の若者たち

淑徳大学

横浜市立大学

新渡戸文化高校

他人との出会いから“**気づき**”より良い社会を“**築く**”人になる

挑戦力 国際交流

面白がり力

創造力

協働力 スタディツアー

DXH

KIZUKU! プロジェクト

地域共創PJ

学びの輪、地域の和、未来へ繋ぐ

よりよい社会を築く、インフルエンサーになろう！

一般財団法人 三菱みらい育成財団

Community School

SAH Student Agency High School

地域から学び、地域を『創る』存在へ



学校・地域

学校運営協議会での
熟議を継続

境界線を無くし
共創する関係性

この活動は本当に**生徒の成長**につながるものなのか

尾瀬高校の挑戦を支え続ける
尾瀬高校 学校運営協議会

生徒一人一人の**エージェンシー**を
最大限に引き出す

ご静聴
ありがとうございました

